

年頭のご挨拶

氷見市長

堂 故 茂

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、清らかな新春の門出をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年六月、氷見から見える朝日が「日本の朝日百選」に選ばれました。

海越しの立山連峰と氷見海岸の壮大で、美しい景観が全国的に認められたもので

あり、大変嬉しいニュースでありました。

また、氷見漁港交差点から間島地内を結ぶ臨港道路が開通し、新名所が増えるとともに、開通が待ち遠しい能越自動車道「氷見高岡道路」も高架橋が姿を見せはじめるなど、早期開通を目指し、工事が進められております。

「いきいき元氣館」では、市民健康大学、ボランティア総合センターなどを開設し、憩いの場として、氷見運動公園のレクリエーション広場を開園、市民病院では緊急外来・産科棟等の充実整備を行い、消防本部では消防通信指令装置を更新しました。

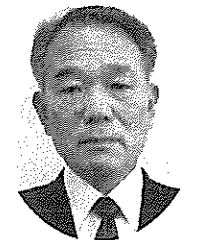
更には、市民の皆様への参加意識の高揚を図る北陸初の市民公募債を発行しました。

そして、氷見市土地改良区の組合員の皆様方をはじめ多くの方々のご尽力により、安定的な水源の確保が図られた今、その有効活用と基幹水利施設である十二町瀉排水機場の補修等にも努めているところであります。

私達の住む氷見市は、心なごませる自然、そしてお互いを思いやる心や暮らしが今に残る素晴らしい田園漁村空間都市であります。

市では、皆様とともに、かけがえのない自然の恵みを活かしながら、日本一の味を発信する食文化都市づくり、各種災害に強いまちづくりを進め、「人と自然がなごむ交流都市ひみ」、「六万人定住と二百万人交流のまちづくり」を目指してまいりますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、皆様方のご健勝、ご多幸を祈念し、年頭のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

富山県高岡農地林務事務所長

上 田 成 志

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、さわやかな年明けとともに、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃から農業の振興と農村の活性化に深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

土地改良区は、昨年、愛称を「水士里ネット氷見」と定め、土地改良区創造運動出発の記念すべき年でありました。これまでも「水づくり」「土づくり」「甲づくり」を通じ地域を支えてこられました。この役割・機能を改めて見つめ直すとともに多面的機能の確保など、新たな役割に対する土地改良区の取り組みについて、地域の人たちと一緒に考えていくことを提案する運動であります。

とりわけ氷見市には、恵まれた自然や文化・伝統とともに熱き思いで築かれた土地改良施設があります。これらを活かし地域とともに歩むすばらしい土地改良区の創造を願っております。

又、昨年は、潮止め水門「朝日丘地区」や排水対策「朴木川地区」など多くの事業を完成することができました。これもひとえに皆様方のご尽力のお陰であり心よりお礼申し上げます。

さらに、ほ場整備と併せ宮農の組織化にも地域の和のもと、取り組まれており、新しい世紀にふさわしい元気な農業が展開されることを期待しております。

さて、本県では、近年の農業・農村がかかえる課題に的確に応えるため実施方針となる「とやま水士里プロジェクト」を策定いたしました。その中で「水と緑と大地がつくる ふるさととやま」を目標に基本方向として

1、将来わたって持続できる農業構造が確立できるよう、「食をささえる農地づくり」を推進する。

2、農村のもつ豊かな地域資源を活用して個性と活力に満ち、温もりのある「住みよい農村づくり」を推進する。

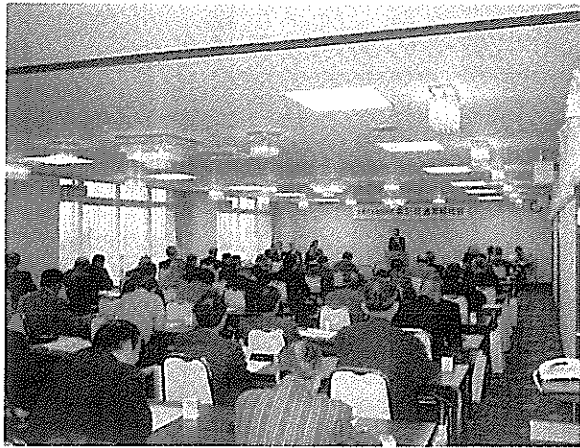
を旨とするとしており、基本方向を着実に実践して行きたいと考えています。ここで特に重要なことは、地域の皆様方で地域の農業や農村の将来をよく話し合っていたいただきたいことでもあります。

みんなで考え、話し合い、地域の将来像を描くそのプロセスが皆様の共通の認識を高め、手づくりの農業・農村を創造できるからです。

土地改良区は、こうした地域づくりの主要な担い手としてもさらなる活躍が期待されていると言えます。

私達は、皆様方と連携し真に豊かな農業・農村づくりを目指す所存でありますので、どうか今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、水士里ネット氷見のますますの繁栄と組合員各位のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



「第31回通常総代会」会場

水見市土地改良区の第三十一回通常総代会が平成十五年三月二十八日午後二時から水見市農業会館で開催され、平成十五年度事業計画及び収支予算について等すべての議案が承認可決されました。廣沢理事長の開会挨拶のあと、来賓として御出席いただきました中田水見市助役、上田高岡農地林務事務所長よりご挨拶を賜りました。会議に先立ち総会議長に阿尾地区の辻本治雄氏を議事録署名人に東海弘氏（窪地区）、

第31回通常総代会を開催

平成十五年度 一般会計収支予算 特別会計収支予算

二億六千三百四十万円
一億六千八百四十二万円
常務理事に久保吉明氏就任

稲泉政雄氏（上庄地区）を選出して議事に入りました。承認可決された議案は次のとおりです。
議案第一号
平成十五年度事業計画及び収支予算について

負担金及びその他五千七十二万二千円となっています。
議案第二号
平成十五年度特別会計収支予算について
・ 国県宮かん排事業積立金
収支総額 一億六千八百四

九万円
・ 維持管理修繕積立金
収支総額 三千五百十九万円
・ 十二町潟沿岸管理区（三件）
収支総額 九千九百六十三万円
議案第三号
平成十五年度農林漁業資金の借入れについて
議案第四号
平成十五年度一時借入れについて
議案第五号
平成十五年度組合費の賦課及び徴収方法等について
議案第六号
平成十五年度現金の預入れについて
議案第七号
平成十五年度役員報酬について
議案第八号
土地の交換について
議案第九号
中山間地域総合整備事業換地計画の変更について
議案第十号
役員候補欠選挙について

事業計画は大浦地区の適正化事業等六事業、収入の主なものとして特別賦課金八千九百九十八万七千円、補助金・助成金等七千六百九十八万九千円、経常賦課金等六千五百四十四万四千円、区債・その他三千八百九十八万円等となっています。主な支出は事業償還金等で八千五百五十八万円、事業費三千九百九十八万円、国県宮事業維持管理費五千四百四十六万四千円、事務所費三千六百六十五万四千円、分担金・

十二万円
・ 転用決済積立金
収支総額 二億七千九百七十五万円
・ 役員退任慰労積立金
収支総額 三百萬三千円
・ 職員退職給与積立金
収支総額 一億六百七十三万円
・ 基本財産積立金
収支総額 六千四百八十三万円
・ 維持管理積立金
収支総額 一億七千五百五十

議案第九号
中山間地域総合整備事業換地計画の変更について
議案第十号
役員候補欠選挙について

市長来賓挨拶 「農業を取巻く環境の変化に的確に対応しながら取組む」

平成十五年度 第一回臨時総代会

氷見市土地改良区の平成十五年度第一回臨時総代会が昨年十一月二十八日午後二時から氷見市農業会館で開催され、平成十四年度収支決算、平成十五年度補正予算など全ての議案が承認可決されました。

開会にあたり廣沢理事長が挨拶し、「近年の厳しい環境であっても、新しい地域づくりを支える中核的な存在となれるよう一層のご支援、ご指導を賜りたい」と述べた。

引き続き来賓としてご臨席賜りました堂故氷見市長の挨拶、続いて立たれました上田高岡農地林務事務所長は、「皆様方のご期待に答えられる整備を進める。」と述べられました。

総代会議長に余川地区の水野間 哲氏が選任され、議長より議事録署名人に窪地区の前正生氏、十二町地区の中山 俊明氏を選出して議事に入りました。

承認可決されました議案は次のとおりです。
・議案第一号
平成十四年度事業報告及び収支決算の承認について

事業として指崎地区の用水路の改修事業等五地区で計画通りに実施されました。また、収支決算の内訳は別紙図表のとおりです。
・議案第二号
平成十四年度特別会計収支決算及び同財産目録の承認について

特別会計の内訳は別表のとおりです。また、財産目録は、資産合計七億一千二百八万四千六百五円に対し、負債合計は十六億一千一百五十万九千五百十二円となりました。

・議案第三号

平成十五年度収支補正予算の議決について
補正額は、収支とも一千八百九十六万円の増額とし、収支総額を二億八千二百三十六万円とするものです。
補正の主な要因は繰上償還賦課金の増によるものです。

・議案第四号

平成十五年度特別会計収支補正予算の議決について
・議案第五号
平成十五年度農林漁業資金の借入額の変更議決について

・議案第六号

定款及び規約の一部変更議決について
・議案第七号
桑の院ため池管理規程の議決について

・議案第八号

財産の取得及び処分
の議決について
・議案第九号
県営土地改良事業
施行申請の議決について

築後二十年が経過して劣化や不具合が発生している十二町瀉排水機場のポンプ等の補強・整備を実施するものです。



ご挨拶を賜りました堂故氷見市長

氷見市土地改良区の愛称が決まりました。
「水と里(みどり) ネット 氷見」

土地改良区の愛称が「水と里(みどり) ネット」に決定されたことを受けて、昨年の十月七日に開催いたしました第一回理事会で氷見市土地改良区の愛称を水と里 ネットの後に氷見を加えて「水と里 ネット 氷見」と決定させていただきました。また、ロゴマークも同様に「水と里 ネット 氷見」と決定しました。

愛称決定を契機として「時代とともに、地域とともに歩む氷見市土地改良区」を口指して氷見らしさを出した「二十一世紀土地改良区創造運動」を進めてまいりたいと思っております。

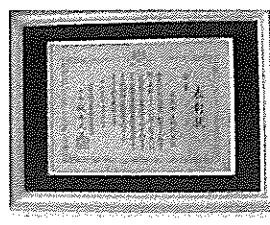


氷見市土地改良区が

「金賞」を受賞しました。

第四十四回全国土地改良功労者表彰式

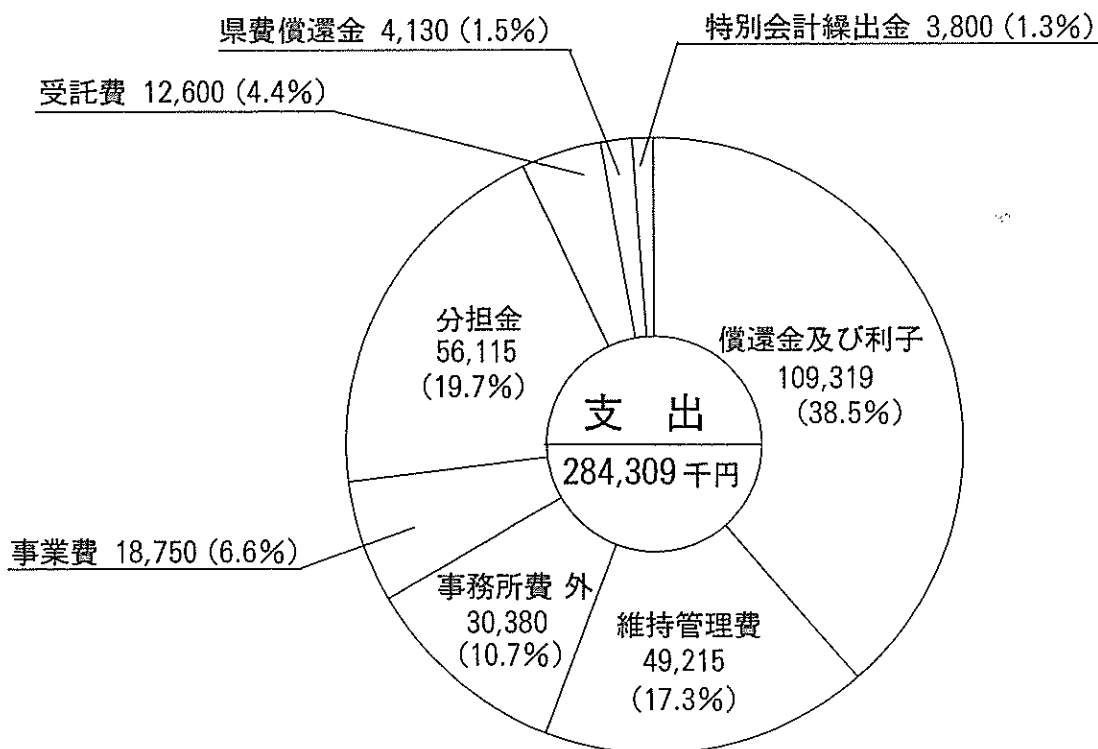
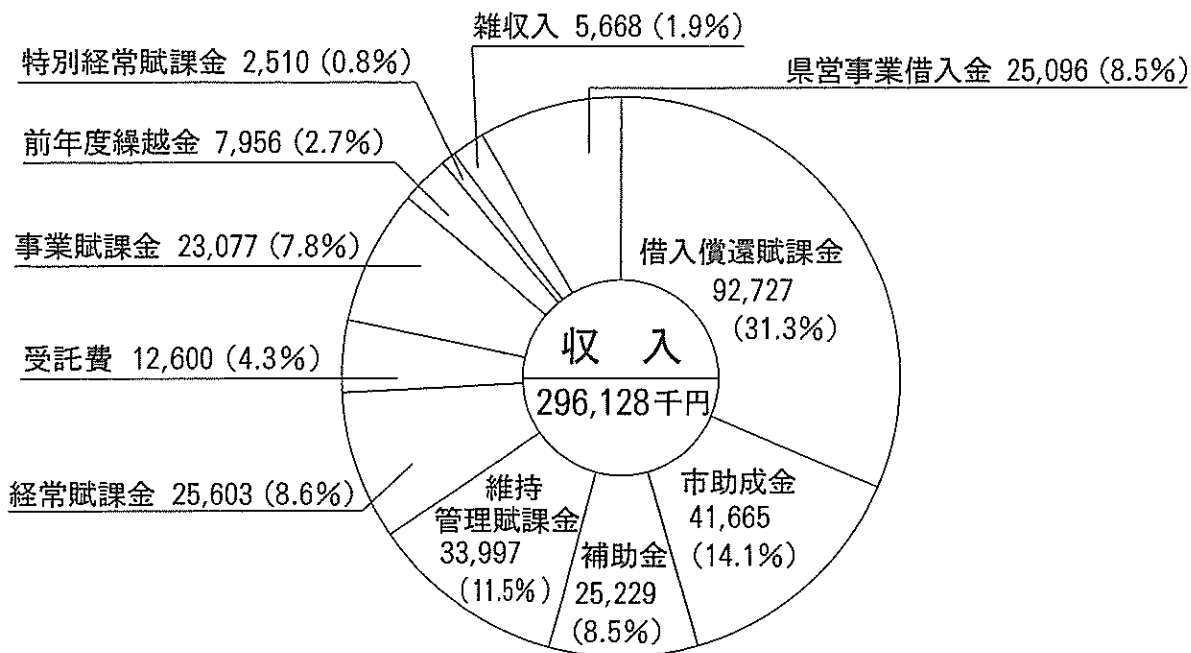
本市の長年の悲願であった水不足解消のために取り組んだ国営及び付帯県営かんがい排水事業が関係者の皆様方のご協力で完成されたことが評価されまして、昨年三月二十七日に東京都内で全国水と里 ネット主催の「第四十四回全国土地改良功労者・農業農村整備優良地区コンクール」において金賞の栄を受けました。当日は廣沢理事長が出席して賞状を受けました。



【別紙】

平成14年度一般会計決算額の内訳

(単位：千円)



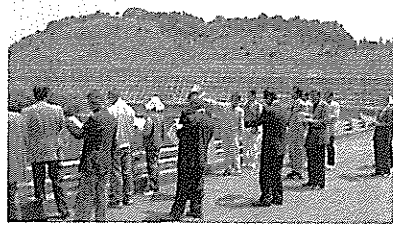
－ 特別会計 －

転用決済積立金	312,078 千円	国・県営かんばい事業 維持管理積立金	155,586 千円
役員退任慰労積立金	2,692 千円	国・県営かんばい事業 維持管理修繕積立金	30,997 千円
職員退職給与積立金	103,144 千円		
基本財産積立金	64,807 千円	十二町潟管理区(3件)	50,951 千円

平成十五年度 氷見市土地改良協会 通常総会 (報告)

氷見市と市内四土地改良区及び十七工区で組織する氷見市土地改良協会の通常総会が昨年五月二十二日午前九時三十分より氷見市土地改良区二階会議室で開催されました。

廣沢会長の開会挨拶につき来賓として出席いただきました飯原氷見市産業部長様から祝辞をいただきました。



「五位ダム」の視察研修

会則に基づき、会長が議長を勤め議事を進行し、平成十四年度事業報告、同収支決算及び特別会計収支決算の承認並びに平成十五年度事業計画、同収支予算など三議案が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。

平成十四年度の収支決算は、収入総額六、〇五三千元、支出総額五、五七〇千元となり差引四八三千元は次年度へ繰越となりました。

平成十五年度の収支予算総額はいずれも一、八四〇千円が見込まれております。減額の主な

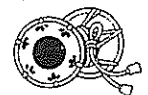
要因は氷見地区国営総合かんがい排水事業誌「五位ダム物語」の編纂事業の完了に伴って事業費が皆減されたことによるものです。

尚、総会終了後の現場研修会を実施しました。

五位ダム↓桑の院ため池↓新保地区ほ場整備事業(実施中)↓中谷内調整池

賀正

二〇〇四年



氷見市土地改良協会

会長	廣沢昭二
副会長	守田一雄
理事	堂故茂
坂本昭男	
監事	辻本治雄
金田静夫	

表彰

おめでとーございます。

平成十五年三月十八日午後二時から高岡テクノドームで開催されました高岡土地改良協議会の「第三十八回通常総会」で次の二名の方が長年土地改良区事業の促進にご尽力されたご功績により土地改良功労表彰が授与されました。

森本 林治 氏

元氷見市土地改良区白川工区長

川辺 仁隆 氏

氷見市土地改良区操作員

小学校の社会科の 校外学習授業で 十二町潟排水機場 について学びました

「水土里ネット」の目指す地域住民との連携の一環として十二町小学校の社会科の授業に「十二町潟排水機場の施設見学」を学習のカリキュラムに組み込んでいただきました。

昨年十月十五日に四年生の生徒さん三十名余りが見学に来場して農村地域の最大の財産といえる「水」について当土地改良区職員から多くのことを学ばれました。

これからも随時このような機会をとおして「食を支える農の大切さ」「農を支える農地、農業用水、農村の大切さ」「農地、農業用水、農村を支える地域住民との連携の大切さ」をこれからの氷見市農業の担い手となる生徒さん達に学んでいただきたいと思います。



真剣な眼差しで説明に聞きいる生徒達

十二町潟沿岸管理区の役員及び代議員の皆様方が改選されました。

氷見市の土地改良区十二町潟沿岸管理区の役員及び代議員が任期満了に伴い、改選されました。選出ブロック毎の新しい顔ぶれは次のとおりです。

尚、退任されます各位には在職中に頂きましたご協力等に対してこの紙面をお借りして感謝申し上げます。また、このたび選出されました役員及び代議員の皆様方には十二町潟沿岸管理区の運営に一層のご協力を賜りたくよろしくお願いいたします。

新 役 員 名 簿 (任期 自平成15年3月26日～至平成19年3月25日)

選出ブロック	役職名	氏名	住所
窪	管理区長	廣 沢 昭 二	窪1575
柳田	副管理区長	釜 口 清	柳田3170
十二町	理 事	森 越 林太郎	海津178
〃	〃	的 場 新 治	十二町711
〃	〃	辻 善 一	下久津呂411
布勢	〃	森 三 男	布施1837
窪	〃	前 博太郎	園229
田子	〃	村 田 和 雄	上泉16-1
神代	〃	桐 光 雄	大浦1786
〃	〃	林 治 夫	堀田1335
窪	代表監事	東 海 弘	窪1482
十二町	監 事	宮 崎 善 美	十二町2374
神代	〃	柳 銑 次	大浦1557

新 代 議 員 名 簿 (任期 自平成15年3月26日～至平成19年3月25日)

選出ブロック	氏名	選出ブロック	氏名	選出ブロック	氏名
十二町	宮 下 清 楚	十二町	坂 下 正 雄	田子	山 本 信 夫
〃	中 島 武 治	窪	東 海 卯 一	〃	川 田 安 広
〃	津 野 吉 博	〃	西 川 元 祥	布勢	中 村 勇 一
〃	崎 山 修	〃	東 海 秀 一	〃	山 下 茂 昭
〃	水 上 昭 弘	〃	東 海 善 之	〃	高 田 善 夫
〃	海 棠 伯 郎	〃	東 海 輝 久	〃	山 貫 喜 智 治
〃	松 原 秀 雄	〃	東 海 金 嘉	神代	細 川 祐 一
〃	西 森 昌 昭	〃	高 木 憲 作	〃	中 初 朗
〃	中 野 良 雄	〃	向 山 一 郎	〃	広 瀬 敏 秋
〃	西 村 吉 信	柳田	万 谷 寛 義	〃	出 雲 貢
〃	尾 崎 義 則	〃	宮 下 健 一 郎	〃	酒 井 繁 夫
〃	山 崎 博 文	〃	屋 鋪 幹 比 古	〃	山 下 寿 明
〃	谷 口 尚 眞	〃	野 畑 清 久	〃	寺 林 清 次
〃	深 田 善 雄	田子	村 幸 三	〃	境 光 一
〃	辻 和 夫	〃	北 村 孝 信	氷見	坂 下 敏 弘

編集室だより

・農林水産省農村振興局長が来場されました。

昨年十月十一日(土曜日)に太田農村振興局長が来県された折に十二町瀧排水機場を視察されました。平成十六年度からの事業化を要望しております基幹水利施設補修事業に対する現場視察です。当日は理事長からの要望の主旨を説明して理解を求めました。

・富山県議会農林水産常任委員会の皆様方が視察に見えられました。

昨年八月六日(水曜日)に県議会農林水産常任委員の議員七名が「環境に配慮した農業水利施設の管理」の一環として当排水機場を視察されました。

・「県政バス教室」で当排水機場を視察されました。

昨年八月七日、八日の両日にわたって七十八名の一般県民の方々が県政に対する理解を深めていただくため、当排水機場を視察されました。

お悔やみ申し上げます。

当土地改良区理事 福島 廣作氏が昨年十二月五日にご逝去されました。

平成九年四月より六年と八ヶ月余りの長きにわたり理事として土地改良区の運営と事業の推進に多大なご尽力を賜りました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

編集後記

平成十五年は内外とも疾風怒濤の年でありました。本年はその余波を受けながらも、世界の平和と景気回復への新たな飛躍の年となることを期待したいものです。

昨年の水稲うるち米は、出穂前から登熟期の低温日照不足による品質管理に組合員の皆様方には大変なご苦労があったと思います。一方、集落で用水管理をされている方々からは「今年ほど水の管理が容易な年もなかった。」とも聞いております。このような状況に遭遇しますと「水」の恵みをつい忘れかけたりもします。

年の初めにあたり、あらためてグローバルな視点から「水」を見直すことも必要ではと思っただ次第です。

二十一世紀のキーワードは、「人口」「食料」「エネルギー」「環境」といわれています。これらのキーワードは独立した課題でなく、それぞれが互いに絡んでいます。一方、二十一世紀は「水の世紀」ともいわれています。「水」はこれらのキーワードとも密接に関係している最も根源的な資源です。

平成十三年の十一月に国連人口基金は世界人口白書を発表しました。それによると、二〇三〇年には世界の人口が八十億人を超え、五十年には現在の一・五倍の九十三億人になると予想しています。しかし、世界の穀物生産量は一九九〇年から九七年まで毎年一%ずつ増えたが、人口増加率はそれを上回る一・六%でありまし

た。その結果、一人当たりの穀物耕作面積は、近年の〇・一二ヘクタールから二〇三〇年には〇・〇八ヘクタールに減少してしまうことが予測されています。また、水については過去七十年間で使用量が六倍に増えたといわれています。この水利用の太宗を占める農業用水については、一般に穀物一トン生産するためには水一千トンが必要といわれております。日本は穀物自給率が三十%程度といわれており、海外依存の農地面積は千二百万ヘクタールで、国内農地面積の二・四倍に当たります。このことは、年間二百四十億トンの水を輸入していることとなります。因みに、国内の農業用水の使用量は五百九十億トンといわれており、日本は水の輸入大国でもあります。世界で起きている水不足や水質汚染から「水貿易」が真剣に検討されており、今や水は、「ブルーゴールド(青い黄金)」とさえ呼ばれるようになってきているそうです。二十一世紀は、この地球の限りある「水」を地球の生態保全と人類の存続のために、総合的に管理するシステムを構築することが使命であります。

グローバルな視点から水問題に、絶えず関心を持ってゆくことが我々の地域の良好な水管理にも結びつくのではと考える今日この頃です。

(数字は土地改良新聞より一部引用)
編集人 久保 吉明

